

## 都立大生に聞く！

## ボランティアからつながる一步

-ボランティア経験者が語るここだけの話-

## ゲスト

横山 水音 さん 人文社会学部 3年  
(SCOK都立大代表)

## ファシリテーター

味野和 豊 さん 人文社会学部 4年  
(学生コーディネーター)

2021年11月11日 (木)

## 報告

## ■都立大生に聞く！シリーズ第2弾

11月11日(木)、本学の学生を対象に「都立大生に聞く！ボランティアからつながる一步-ボランティア経験者が語るここだけの話-」をオンライン (Zoom) で開催しました。当日は5名の方にご参加いただきました。

今回のゲストは、相模原市で活動する学習支援を行う学内登録団体「SCOK (スコック)」の都立大代表、横山水音さんです。学生コーディネーターの味野和豊さんがファシリテーターとして進行し、和やかな雰囲気の中でお話を伺うことができました。「SCOK」の活動内容を知ることさることながら横山さんが実際に活動する中で大切にしている思いや、子供たちの現状を知ることができ、参加者への事後アンケートでも大変好評をいただいた講座となりました。

## ■SCOKの活動と居場所支援

最初に、横山さんが用意したスライドを画面共有しながら活動について詳しくお話を伺いました。「SCOK」とは「相模原市の中学生をお助けする会」の略称で、主に生活困窮世帯の中学生を対象とした学習支援を行っている団体です。大学生ボランティアは他大学の学生も含めて約70名 (都立大生は約10名) ほどいるそうです。週に1回勉強会 (2時間) + スタッフミーティングを前後に30分行っているそうです。勉強会といっても塾のように勉強を習得することを目的としておらず、どちらかというと居場所支援に重点が置かれていると横山さんは言います。勉強自体があまり得意ではない子どもたちが多くいるからだそうです。無理に勉強せず、気分が乗らない日にはお話ししたり、みんなでトランプをしたりして楽しく過ごし、次回以降も継続して来てもらうことを大事にしているそうです。その他にも勉強会の会場とは違う場所で月に1回程度シーズンイベントを催してレクリエーションもしているそうです。

## ■SCOKとの出会い・活動で気づいた大切なこと

横山さんが1年生の時にサークル説明会で見かけたのが「SCOK」との出会いだそうです。ボランティアをしよう！という意欲はなかったものの、元々子供の社会福祉の分野に関心があり、横山さんが社会に必要なと思うことと「SCOK」の

## ボランティアって何？

ボランティア活動の魅力って？

どんなことをするの？

自分の学問にどう活かされるの？

東京都立大学  
Volunteer Center  
EST.2003

SCOKに聞く！

ボランティアからつながる一步  
-ボランティア経験者が語るここだけの話-

開催日：11.11(木) 昼休み (12:10-12:50)  
会場：オンライン (Zoomミーティング)

活動が一致していたのがポイントだったそうです。「活動してみても感想は？」との味野和さんから問いかけに、「最初は一緒に勉強できたらいいなという思いでしたが、それは今でも変わらないけど、家や学校に居場所がなかったり居心地が悪いと感じている子どもたちに勉強だけを教えていても解決しない。むしろ自分の話をちゃんと聞いてくれる場所を確保することもすごく大事なんだということに気づかされました。教育にプラスして子ども達の精神的な支えとなる居場所支援にも関心が広がった。」と話してくださいました。子どもの心に寄り添い続け、受け止め、支える居場所でありたい。そんな横山さんの思いが伝わってきました。

## ■活動して変わったこと・コロナ禍での活動

活動する前は学習にお金をかけられないということが妨げになっていると思っていたが、それよりも勉強に対して重要性を感じる事ができず初めから勉強しないという子がとても多いと分かったそうです。勉強に対してもっと身近に感じてもらうこと、自分の事として捉えてもらうことや自分の将来のビジョンを描いてそれに向かって勉強が大事だと分かる事が大切なんだと思うようになったそうです。児童福祉を学ぶ中で何を改善しなければならぬかを考える上で、論文だけでは見えてこない子どもたちが抱えている困りごとを実際に知ることができたことが大学での勉強にも影響しているそうです。

またコロナ禍において活動が一時期止まってしまったことがあるとのことでしたが、それでもあきらめずにオンライン学習会を開催してZoomで雑談したりオンライン上でもできるゲームをしていたそうです。緊急事態宣言が明けてからは感染症対策をしっかりとって開催しているということでした。最初は今まで来ていた子どもたちがなかなか戻って来てくれず、手紙を書いてハロウィンパーティーを開催したところ戻って来てくれるようになったそうです。子どもの心に寄り添う熱意が子供たちの気持ちを動かした、そう横山さんから教えていただきました。

また視聴者へのメッセージとして「ボランティアというハードルが高いイメージで躊躇することもあるかと思いますが、誰かと関わりたいなという思いだけでいいと思います。興味があればいつでも「SCOK」に連絡ください。」と伝えてくれました。

## ■参加者の事後アンケート

- ・とても有意義な講演会でした。開催していただきありがとうございました。
- ・横山さんがどのような思いで活動に参加しているのかがとてもよく伝わった内容で満足度が高かった。